

上智大学・カトリック高等学校連携協定校対象 高校生タイ・スタディーツアー

第4期(2025年7,8月実施)プログラム実施レポート

学びで高校と大学をつなぐ、上智大学と高校生の海外教育プログラム

上智大学と全国のカトリック高校の連携協定のもと、学びで高校生と大学を接続するプログラムの1つとして、上智大学Sophia Future Design Platform推進室、および上智大学タイ教育事業会社Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd (SophiaGED)が、タイ・バンコクをフィールドとする高校生のスタディーツアーを企画・実施。4期目となる2025年度夏季シーズンは、A,B2日程の開催で各日程30名、合わせて60名の高校生が全国の連携協定校39校から参加しました。



「新しい環境・機会を自分に取り入れ、学びや力に変える」

タイをフィールドとした、上智大学と高校生との海外プログラム。全国各地から初対面の高校生メンバーが集まり、大学教員や大学生スタッフと一緒に多様な経験をし、各自の学びを追究しながら、互いに学び合える充実の学びの場となりました。

本プログラムでは、新しいコミュニティ・環境での大学ベースの学習体験が、高校生の未来へつながる力となるよう、特に、自分の目的意識や自律的な学び方がより重要となる大学への接続を意識して、「自分たちで自分の学びを創る意識や、新しい環境での経験を自分の学びとして取り入れる力を伸ばすこと」を目標に置いています。

現地の大学・日系企業や団体・ローカルコミュニティ・スラム地域支援団体など、多様な層にわたる訪問先で現地の方々やタイで活動する日本の方々との対話や交流・現地活動を通じて学んだり、自分達で目的や手段を決めて現地に飛び込んでのフィールドワークも経験。そして、貴重な経験や思考はワークブックへたくさん記録し、まとめのセッションでは、書き溜めた記録を可視化・構造化し自分の学びをしっかりと掴むことも試みました。

高校生みなさんは、タイでのさまざまな実体験に加え、現地で出会った方々や参加者同士との対話を重ねる中で、異なる文化や社会への理解を自らの視点と行動を通して深めていきました。また、自分自身について考える機会ともなり、関心のある分野や自分の力に気づき、今後の学びの方向性や将来への展望をそれぞれ見出していました。

高校生みなさんの、これからの学びや自分の世界を広げていく力に繋がることを願っています。



実施概要

日程	事前ガイダンス 2025年6月29日(日) (A,B合同 オンライン実施) 渡航プログラム Aグループ 2025年7月20日(日)~25日(金) Bグループ 2025年8月3日(日)~8日(金)
参加者	上智大学カトリック連携協定校 高校1-3年生 Aグループ30名、Bグループ30名
担当者	新 江梨佳 (上智大学特任助教/SophiaGED教育プログラムディレクター) Sophia GED タイ現地スタッフ 上智大学 学生インターン
場所	タイ・バンコクと周辺地域
主な活動	現地大学・地域支援団体・地域コミュニティ等での多角的な体験学習 自分で設定するテーマやミッションに基づくフィールドワーク実践 発見や経験を学びにつなげるワークショップ
企画実施	上智大学 学事局 Sophia Future Design Platform 推進室 Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (SophiaGED) (上智学院 タイ教育研修事業会社)



日程	場所	活動内容
1日目	各地・東京 バンコク	(各自移動)日本各地 → 東京 移動:東京 → バンコク(空路)
2日目	バンコク ナコンパトム	タイ文化体験 仏教寺院訪問・体験 大学訪問 キャンパス見学・学生交流・英語レクチャー 現地生活体験 市場体験
3日目	バンコク	地域文化体験 地域の方との文化ワークショップ 社会課題学習 スラム地域支援団体訪問
4日目	バンコク	エリアフィールドワーク 複数エリアでグループ探索 グローバルキャリア学習 日系企業・団体訪問、夕食交流
5日目	バンコク	自己計画フィールドワーク 総括ワークショップ 移動:バンコク → 東京(空路)
6日目	東京 各地	東京着 (各自移動)東京 → 日本各地

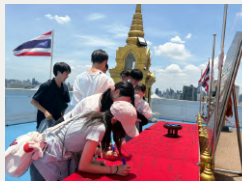
実施の様子

1 多様な経験・体験

自らの経験をもって実践的・多角的に考える

渡航プログラムとして、自らの経験を持って考え学ぶことを重視。寺院・地域コミュニティ・大学・日系企業・商業地・スラム地域支援団体など多様な層にわたる訪問先を取り入れ、能動的に取り組む活動や体験ベースで学べる機会を設けました。

自らの経験を持って多角的にタイを調べたり、多様な経験から個人に応じて学ぶポイントを見出したりできるよう、思考の材料となる多くの経験・実体験を重ねました。



仏教寺院訪問 (2日目)
バンコク市内の仏教寺院を訪問し、現地スタッフに教わったり、現地の方々の様子を見ながら参拝やおみくじなどを体験。自らの体感を持って、タイに根づく仏教をはじめとする文化を学びました。



大学訪問 (2日目)
上智大学の協定校でもあるタイトップ大学のマヒドン大学(A)・タマサート大学(B)を訪問。現地教員による英語レクチャーや、現地大学生との交流を通じ、大学での学びやタイ文化を教えてもらったり、ディスカッションに取り組めました。



スラム地域支援団体訪問 (3日目)
貧困層の方への支援団体を訪問。日本人スタッフの方にお話を伺うことに加え、地域を実際に歩き、暮らしの様子に触れつつ、住民の方々と挨拶を交わしたりし、多様な立場の人に直接関わりながら実態を見て考えました。

2 自律的な活動実践

自分の意志で学びや活動を創る力をつける

大学や将来に向け、自ら考えて動き、自由度を活かす力を伸ばす機会を意識。大学訪問など比較的内容まで用意された活動から、徐々にテーマや手段を自分で設定して実践するフィールドワークなど参加者自身が考えたり決めたりする活動へ移行。参加者みんなでルールを決めての自由行動時間も設定しました。責任や難しさも含めて自律的な活動の面白さを体験し、できることが増える自信もつけながら、先への姿勢に繋がりました。



フィールドワークトレーニング
各エリアで小さなミッションを持ったグループ行動時間や、公共交通の利用機会などをとり入れ、自己管理しながら新しい土地を探索したり、学びの機会を自分たちの力で創って広げるスキルを実践的に伸ばしました。



自由探索フィールドワーク (5日目)
自分達で目的・行き先・活動を設定して自由探索。興味に関連するエリアを探して散策したチーム、テーマを設定して現地の人へのインタビューにもチャレンジしてタイの理解を深めたチームなど、メンバーの協力で積極的に行動できました。



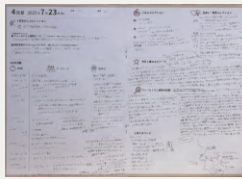
自由行動時間
みんなで決めたルールに沿って、ホテル戻り後の時間も近隣の施設を体験できる時間に。自分達でしっかり管理・判断しながら新しい地で活動する力を実践的に伸ばし、それができると広がる機会や可能性を体験しました。

3 経験の言語化・構造化

自分の経験や思考を整理・認識して学びに変える

経験や思考を言語化・記録・構造化し、自分の学びを意識的に捉える学習活動を、全体を通した軸としました。

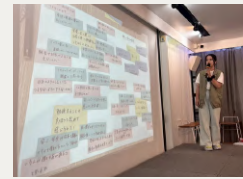
プログラム用に作成したワークブックを用い、自分のミッションを言語化してから開始したり、日々の活動記録を每晚ホテルで各自しっかり記録。最終日には書き溜めた記録を付箋に書き出して俯瞰し、全体の学びを可視化・構造化することで、自分にとっての学びや成長をとらえることを試みました。



ワークブック記録 (プログラム全期間)
A5見開きのワークブック項目に沿って、1日の経験や気持ちを毎晩しっかり記録。振り返りや言語化を通じて、感じたことや考えたことを認識し留めました。書き方も個人の工夫が表れ、経験や思考が詰まった「自分の一冊」ができました。



ラップアップ: 経験や思考の整理 (5日目)
日々書き溜めた記録から付箋に書き出すと数十枚に。繋がりが重なるものを整理し、プログラムを通じた自分の学びを掴み取った。「紙がこんなにうまると思っていません。知らないうちに成長したんだと気づいた」と実感も。

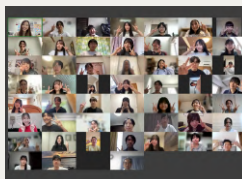


ラップアップ: 各自の学びの発表 (5日目)
付箋で整理した紙をスクリーンに投影しながら、1人1分で自分の学びを発表・共有しました。自分にとってプログラムがどんな機会だったかを表現したり、一人一人観点が異なることにさらに学びを得たり、実りある時間となりました。

4 参加者同士の交流と学び合い

全国各地から集まった異なる学校のメンバーが、渡航前からのLINEグループやガイダンスでの交流、協働的な現地活動を通じてどんどん関係を深めていきました。

新しい人間関係を築きながら経験を共にする機会が、高校生にとって普段と異なる刺激や世界の広がりとなっていきました。



オンラインガイダンスから交流



移動もメンバーとの貴重な時間



訪問先の方やメンバーとの食事でも対話の機会

参加者の学び

プログラム内の活動・経験からの学び

異なる国の文化・社会への興味、探究的思考

- 行く前の自分はタイへの偏見があったりしたけれど、実際に訪れて、「実際に自分の目で確かめる」ということが大切だと感じました。タイの良さや文化の違いを知って、もっと追求したくなりました。
- 「何という名前か」「何に使うのか」など疑問を放置せずわかるよう努力しました。ささいなことにも目を向けて興味関心を持って過ごすことができ、努力の分だけ濃くなったと感じます。
- 「多様性」について考えさせられるきっかけになりました。違いに気付いたことで、思いを深めたり新たな疑問をたくさん生むことができました。
- スラムに対し不幸なイメージをもってしまっていたが、スラム街に行ってみると、皆生き生きとして優しく、「足ることを知る」まさに知足の境地に至っている人々だと感じた。生まれた場所で人生が決まるのはどうなのかという疑問と、直接現地に行ったことで自身も力になりたいという気持ちが増えた。
- 一番嬉しかったことは、海外で学ぶ方法がわかったことです。留学先でどう学ぶのか分かっていませんでしたが、こうすればいいんだ！と納得でき、プログラムで得たことを他の国にも活かしたいです。

人との関わりでの気づき・成長

- 自分の殻を破ることでより世界が広くなり、吸収できることが増えると思え、自分の意見を言ってみたり、話したことない人と話してみたり、自分なりに挑戦することができました。
- 全国から来ている友達に会い、常識だと思っていたことが違い、同じ学校のプログラムではなかったから気づけたことがありました。タイに違う点がある一方で共通点があるように、日本人でも違うところもあり、「タイ人だから違う」「日本人だから一緒」という考え方でなく、「人はみな違う」ということを意識して大事にしていきたいと思いました。
- 人と関わることが好きだったが、同時にとても奥手な性格だった。しかし、ツアーで多くの人と話したり、タイの人の価値観を考える中で自分が積極的になっていくことに気づいた。
- グループでの活動では、協調性や人のための行動をすることの大切さを知ることができました。これからはチームで活動するときは、思いやりや協調性を大事にして行動していきたいです。

プログラム全体を通じた自己認識や学習観・将来観に関する気づきや変化

自己理解・自己効力感の変化

- 新しくできた友人との交流や、初めて学ぶタイの文化を通じて改めて自分を見つめ直し、自分が人と関わることや海外が好きだと知ることができたり、たくさん悩むことも悪くないと思ったりと自分の理解も深まった忘れられない旅になりました。
- 文化や環境だけでなく、タイで「やったこと」が印象に残っていて、特に「チャレンジしたこと」「できたこと」は嬉しいしこれからは忘れたいと思います。
- マインドの変化として「自分の殻をぶ壊した」ということが大きいです。自分と外の関わりを通じて、今まで向いていなかった外への視野が開けたと思いました。やりたくないことや無駄に傷つくことにはしない姿勢で生きてきたけれど、あれもこれもやってみると楽しい！ということに気づけました。楽しめる心があれば人生変わるものだと思います。

今後の学びの指針・将来への展望

- 限られた時間の中で、自分がどれだけ学びを得られるかという方法を知ることができました。思ったこと、疑問に思ったことを日々のノートに書き留めておくことで、今までは難しかった目標設定や何を果たかを振り返る時にすらすらと出てくるようになりました。
- 目標を見つけるためにも見つけた後も、プログラムで学んだことを思い出して学習の楽しさや挑戦の面白さを忘れないようにしたい。学校での学びにも関連づけて、「机の上の勉強」からさらに深く学ぶようにしていきたい。
- 自分を見つめることで、未来が輝くと思いました。自分の強みを知り、自信を持って行動できるような人になりたいです。楽な方・安心な方を選ぶのではなく、常に誰かの役に立ちたい、ワクワクしたい、成長したいという思いを忘れずに頑張っていきます。